

◎シリーズ 長岡京歴史散歩

117

長三小学校区の遺跡

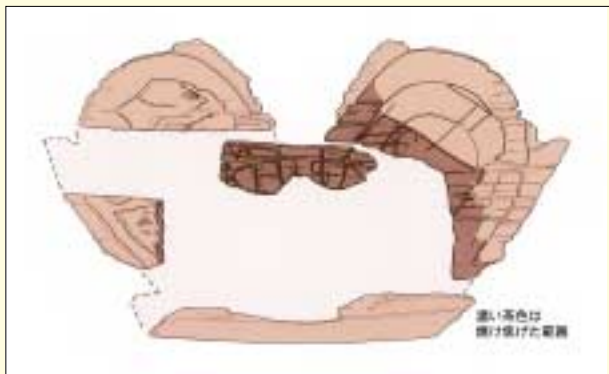
〈今里車塚古墳〉

今回は長岡第三小学校校区の東端、今里四丁目に築かれていた今里車塚古墳のお話です。この古墳は現在地表に姿をとどめていませんが、1979（昭和54）年からの9回の発掘調査によって、今から1600年ほど前の古墳時代中ごろに築かれた前方後円墳であることが分かっています。古墳の全長は75m程度、墳丘の表面は葺石と円筒埴輪列で整えられ、家形・きぬがさ形埴輪といった形象埴輪も配されていました。また、柱に取り付けられたと推定できる笠形や盾形の木製品が発見され、埴輪のほかに、木で作られた飾り物が存在したことも明らかになりました。

図の遺物は1995（平成7）年に行われた発掘調査で古墳の濠から出土しました。遺物は横幅が1・6mに達する巨大な木の板で、板の表裏には直線と曲線が浮き彫りされています。このような木製品は全国的にも例がなく、当時何に使われたのか正確に知ることができません。しかし、形象埴輪の「ついたて」形埴輪などに似通った形のものであり、儀式を行う場所で権力者の権勢を誇示するために用いられたと想像できます。埴輪や木で作られた様々な飾り物を備えた今里車塚古墳には、乙訓地域一帯に強い影響力を持っていた人物が葬られたと考えられます。



▲今里車塚古墳のようす



▲周濠から出土した大型の木製品（復原図）